

平成 28・29・30 年度文部科学省委託「幼児教育の推進体制構築事業」  
『幼稚園・保育所・認定こども園等を巡回して指導・助言等を行う  
「幼児教育アドバイザー」育成・配置に関する調査研究』より

## 協働的なカンファレンスのすすめ



平成 31 年 3 月

奈良市子ども未来部こども園推進課

## 目 次

はじめに	1
協働的なカンファレンス～保育者同士で学び合う～	2
(1) 協働的なカンファレンスを	
(2) どのような方法のカンファレンスを行っていますか	
(3) カンファレンスの進行や助言のポイント	
(4) 話しやすい雰囲気づくりとは	
(5) こんなとき、どうしていますか	
明日の実践へ～カンファレンスを実践へとつなぐ～	12
カンファレンスで学んだことを明日の教育・保育に生かすには	
おわりに	13



## はじめに

奈良市では中堅層にあたる幼児教育の実績経験者の不足と若手層の増加に伴い、教育・保育技術の継承が困難であるということが課題の一つとしてあげられます。そのために、指導助言、研修企画力等の力を兼ね備えた幼児教育に関する指導的役割の中核を担う「幼児教育アドバイザー」の育成に取り組んできました。

幼児教育アドバイザーとは

講習や実習を受けて、次の4つの資質・能力を高めてきた方たちです。自園や他園における指導や研修を通して、奈良市の教育・保育力の向上に寄与することが期待されています。

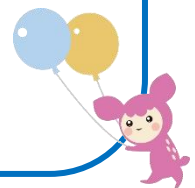
### 幼児教育アドバイザーに必要な4つの資質・能力

専門的知識の保有

実践上の課題に応じて  
指導・助言する能力

資質・能力を  
高める研修を  
企画・運営する能力

実践研究を  
推進・統括する能力



本パンフレットは

幼児教育アドバイザーが、教育・保育の質の向上をめざす取組としてのカンファレンスを、各園でどのように生かし実践してきたのかをまとめたものです。各園の実態に合わせて工夫しながらご活用いただき、園内のカンファレンスの手がかりとして頂きたいと考えています。

お読みくださる皆様にとって、カンファレンスについて気づきや考えを深めるきっかけになれば幸いです。

## 協働的なカンファレンス～保育者同士で学び合う～

### (1) 協働的なカンファレンスを

保育者が子どもの理解を深め、自身の専門性を高めようとする時、保育を通して互いに学び合い、自らの保育を振り返る必要があります。

#### 協働的なカンファレンスとは…

経験年数や雇用形態を問わず、  
誰もが対話する

明日の教育・保育についての  
対話を通して、チームワークを形成する

#### 協働的なカンファレンスをする

自らの意見を発言し  
悩みを共有しながら  
主体的に学び合う

他の保育者の話を聞く

保育者としての姿勢や視野を広げ  
やる気や意欲に  
つなげることができる

子どもの見方が豊かになる

新しい保育のアイデアが  
生まれやすくなる

多様な意見を出し合って擦り合わせ、学び合い、その時に一番良い答えを見つけ、教育・保育を再構築していきませんか。

## (2) どのような方法のカンファレンスを行っていますか

「意見がなかなか出ない」ということはありませんか？

⇒意見を出しやすくするために「可視化する」という方法があります。

カンファレンスでは、  
どんな可視化の方法が  
あるのかな???



シート

写真

付箋

ビデオ

ホワイト  
ボード

模造紙

### 可視化をすると…

- ・それぞれの考えが誰の目にも見えるので、共有しやすくなる。
- ・話し合いの道筋が明らかになり、全体像が見える。

⇒思考を可視化して、発言を引き出しましょう。

### 実践例 1 【シートを使用したカンファレンス】

テーマや保育のねらいに沿って「シート」を作成



保育を参観する中で、気付いたことを「シート」に記入する。



「シート」に書き込んだ内容をもとに付箋を作成



カンファレンスの実施

## シートの例

### 例えば…

- ・ どういうところに着目して観察するのかなどを、参観時の視点として入れる。

◇本日の公開保育での各年齢における参観のポイント  
付箋について(ポイント記入について)  
クリーム色…援助 及び 環境構成等 の良かった点  
ピンク色…クリーム色の援助・環境構成等を取り上げた理由  
水色…明日につながるヒント及びプラスしたい援助や環境構成  
☆3種類(良かった点・理由・明日につながるヒント)で1セットとなります。  
必ず1セットは書いてください。

### 記録用紙

	良かった点 クリーム色	理由 ピンク色	明日につながるヒント 水色
<b>子どもの姿</b> この時期の子どもの姿 興味関心 何を楽しんでいるのか(熱中・没頭) チャレンジ 人とどのようにかかわっているか 問題解決について 考えや気持ちを言葉でどのように表現しているか どんなことを学んでいるか 等			
<b>環境</b> この時期の環境は(発達) 子どもの興味関心からの環境は 学びを考えての環境 等			
<b>援助</b> 何をねらって、どのように声をかけているか 声かけの仕方・タイミング・声のトーン 遊びの方向性を共に考える トラブルの解決 子ども主体となる声かけかどうか 等			
<b>その他</b> 共通活動経験について 指導案について 時間・雰囲気的なこと 明日の保育に向けて 等			

○歳児 園内公開保育 平成○年○月○日

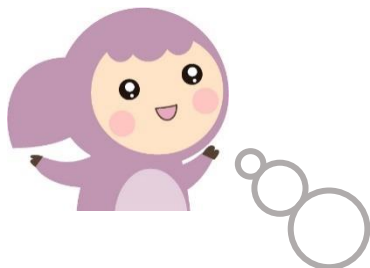
\*「いいね!」「きりり!」を見つけよう!

第1点	ポイント	発達に応じた環境構成・遊びたくなる環境構成
	具体的内容	
第2点	ポイント	保育者の関わり(子どもへのまなざし・ふるまい・言葉遣いなど)
	具体的内容	
第3点	ポイント	子どもの興味関心・発見・気づき・挑戦など
	具体的内容	
まとめ	ポイント	明日につなげるために
	具体的内容	

### 例えば…

- ・ 他の保育者と共有したいクラスの取組や保育者としての関わり方
- ・ クラスの悩みや課題、保育の改善点につながるような視点を、ポイントとして入れる。

### シートがあると…



- カンファレンスで話し合いたい、取り上げたいテーマ、課題などに沿った視点で参観者が保育を見取ることができる。
- 保育での子どもの姿や環境構成・援助を捉え、分析しながら観察することができ、自分の考えを整理することができる。
- カンファレンス前に記入することで、カンファレンス中は他の保育者の意見に耳を傾ける気持ち的な余裕が生まれる。



## 実践例2【写真や付箋を使用したカンファレンス】

### 付箋の例

**子どもの姿**

- ・主体的に活動する姿
- ・つぶやきや会話 等

**環境・援助**

- ・人的環境（援助）
- ・物的・空間的環境
- ・時間的環境 等

**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）**

- ・子どもの遊びが10の姿のどの視点につながるか 等

**明日へつなげる「ちょい足し」の内容**

- ・環境の再構成 等

全員の付箋の内容をグループ化（色別）に記入して話し合うと、様々な意見を容易に比較できる。

付箋があると…

### 写真と付箋を使った例

子どもが夢中になっている場面や話し合うテーマに沿った写真を撮る



写真の周りに、コメントを記入した付箋を貼りながらカンファレンスを実施する

その期の  
特徴

子どもの姿  
環境・援助の  
良かった点  
その理由

明日の保育に  
つなげるため  
には

幼児期の終わりま  
でに育ってほしい  
姿（10の姿）へ  
のつながり

### 写真があると…



- 言葉で語られていることを場面として情報共有ができるので、イメージしやすい。
- 遊びの経過の写真を何枚か並べることで  
→遊びの展開や工夫が、可視化されて分かりやすい。  
→子どもの興味・関心がどう変化していったのかわかりやすい。
- 子どもが夢中になり好奇心をくすぐられている姿の写真をそれぞれ持ち寄ることで  
→それぞれの保育者の視点が分かり、そこから保育観を見ることができ、共有できる。

### ビデオがあると…

- 言葉で語られていることを場面として情報共有ができるので、イメージしやすい。
- 公開保育に参加できなかった職員も学び合うことができる。
- 実際の子どもの姿を確認し、教育・保育中には気づいていなかったことやこれまでに捉えきれていなかった子どもの新たな一面に気付くことができる。
- 実践者自身の保育が言葉ではなく視覚で確認でき、振り返りにつながる。



※カンファレンスの方向性によっては、写真やビデオで共有した場面以外にも、感じたことを自由に意見として出し合う時間を設けても良い。

### ホワイトボードがあると…



- いろいろな意見を書き加えたり消したりすることで、一つのテーマに対して、参加者全員の意見を集約し、方向性をまとめて書き表すことができる。⇒容易に意見の更新ができる。
- 経験が浅い保育者が、意見を上手く表現できなくても、他の保育者の意見を書き加えることで、方向性の整理がしやすい。

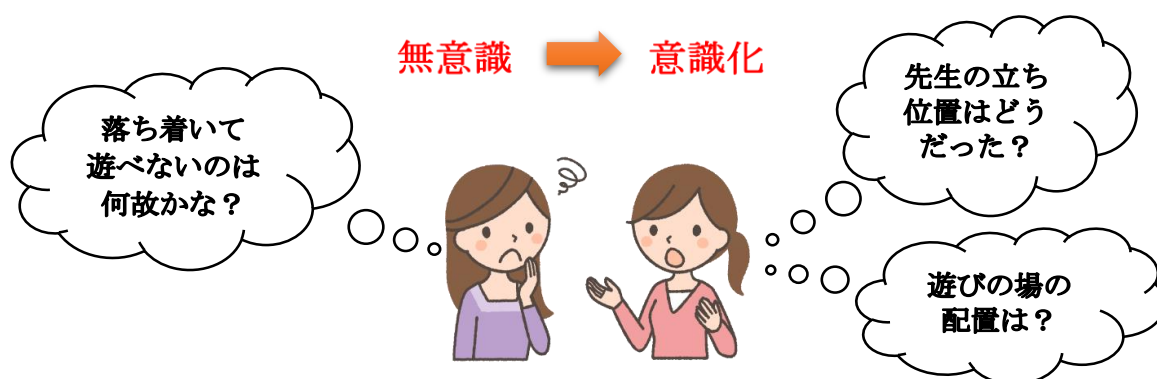


### (3) カンファレンスの進行や助言のポイント

★参加者全員が主体となって意見を交わせるように工夫する。

- ・参加者全員が発言できるように声をかけ一人一人の意見に共感し、類似する意見がある時は同じ意見の保育者にも聞くなどして、深く掘り下げるようにしている。
- ・意見が出しにくい保育者には、感想を聞くことで意見を伝えやすくなる。
- ・意見を伝えることで保育観も含めコミュニケーションにもつながる。

★保育者の意図や悩みを聞きながら、無意識を意識化できるように言葉がけをしていく。



★保育者の悩みをきっかけとしたテーマの設定を行う。

話し合いの中で、気づいたことや「こんな方法もあるかも」など、意見を引き出し、様々な角度から環境や実践を見直して、明日の保育につなげられるようにする。

(保育の再構成)

★保育の具体的な場面を捉え良かった点を認める。

⇒自信を持って明日への保育に臨める。(実践者の自信や意欲に！)



#### (4) 話しやすい環境づくり・雰囲気づくりとは

どんな工夫ができるかな？

- ・少人数グループに分かれる。
- ・カンファレンスの冒頭で、どんな些細なことであっても遠慮なく発言しても良いこと、様々な意見が出てこそ、自分たちの学びが深まることの確認をする。

(多様な意見を認め合う)

- ・安心して意見が出せる雰囲気作りをする。
  - 肯定的に受け止め、頷いたり言葉にして認めたりする。
  - 経験談から考えられるような問いかけをする。  
話し合いの中で出た様々な方法や意見の中から、実践者自身が選んで、保育に取り入れていく。



#### 日常の話しやすい雰囲気づくりも大切に！

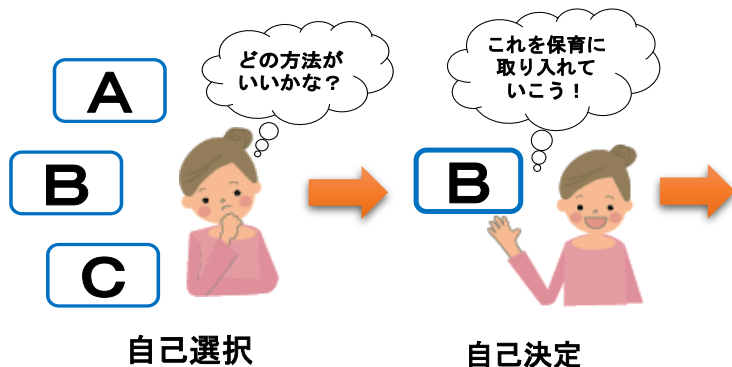
園内では、カンファレンスで話し合いをする時だけでなく、日頃から職員間で何でも話せる、話しあえる関係作りや日常の職員同士のコミュニケーションや気軽に思いが伝えあえる工夫も大切ですね。

例えば・・・

- ・日常の雑談の中からテーマを拾う。
- ・日頃から思いや気づきが発信できるようなスペースを作る。  
(例 職員室や休憩室などみんなが集まる場所にボードを用意し、いつでも記入できるようにする) など

#### ★協働的なカンファレンスを通して、実践者は…

話し合いの中で出た様々な方法や意見の中から、実践者自身が選んで、保育に取り入れていく。



○そのことがうまくいった時、うまくいかなかった時に次のステップに結びつき、実践を積み重ねて保育に対する視点が広がっていく。

○話し合いを共有したことで、互いの実践を理解することにつながる。また、次の展開、方向性を協働的に考えることにもつなげていくことができる。  
(園内での教育・保育観の共有と理解、園の教育・保育の質の向上へ)

## (5) こんなとき、どうしていますか？

各園でカンファレンスを実施する時の共通する悩みを、Q & Aにまとめました。



ふと気づくと、ベテランの先生ばかり話しています。  
若い先生もベテランの先生も、全ての先生が発言できるようにするためには、どのように進行したらよいのでしょうか？

### 幼児教育アドバイザーはこんな工夫をしています

- ◇それぞれの**経験年数**ならではの**意見**を共有し、互いに学び合える場としたいことを伝えています。
- ◇**アイスブレイクの時間**を設けるなど、みんながリラックスして一体感が生まれるようにしています。
- ◇発言の少ない保育者に、**その人が話しやすい話題**を振っています。
- ◇経験年数の少ない保育者から発言できるようにし、**その人の意見**にはなるべく**共感**を示すようにしています。
- ◇他の保育者の発言を受けて、その**考えをより引き出すよう**に返します。
- ◇どんな保育者でも、自分の**経験**をもとに**考えられるような問い**かけをします。





園内において限られた時間、限られたカンファレンスの機会を有効かつ効果的に活用していくためにどのように工夫したらよいのでしょうか？

### 幼児教育アドバイザーはこんな工夫をしています

- ◇ 事前にテーマを提案し、それぞれが考える時間を設けています。
- ◇ 事前に付箋に記入し、意見の可視化をしています。
- ◇ 事前に資料（指導案など）を渡し、目を通してもらうようにしています。
- ◇ 項目ごとに時間配分し、時間内で終われるように進行しています。
- ◇ 終了時間を決めて、できるだけ超過しないように進行しています。
- ◇ グループ討議の活用により一人一人の発言時間を増やしています。





ネガティブな発言が続いてしまう時に、どのように進行したらよいのでしょうか？

### 幼児教育アドバイザーはこんな工夫をしています

- ◇ネガティブだったとしても貴重な意見なので、まずは聴くようにしています。その中で、職員同士で建設的な意見ができるよう視点を変えて質問したり、提案を試みたりします。
- ◇気持ちを受け止めた後、色々な視点を提供し発想の転換を図るようにしています。
- ◇発言を一度司会でまとめ、方向性の確認を行うと共に、プラス方向に発言を向けられる内容を探し提案してみる等、できる限り聞いている側のやる気につなげられる進行を心掛けています。
- ◇和らぐような雰囲気をつくり、プラスの言葉を多く使うようにしています。
- ◇視点を変えて、質問を試みる等、違う考えや固まっている思考に気付けるような言葉を投げかけています。
- ◇励ましたり、打開策を共に考えたり解決の糸口を見つけ、共に子どもを育てていこうという意識をもてるように話しています。
- ◇発言者や、子ども達のいいところ、楽しんでいるところ、輝いている姿などを具体的な姿を伝えながら、進行しています。

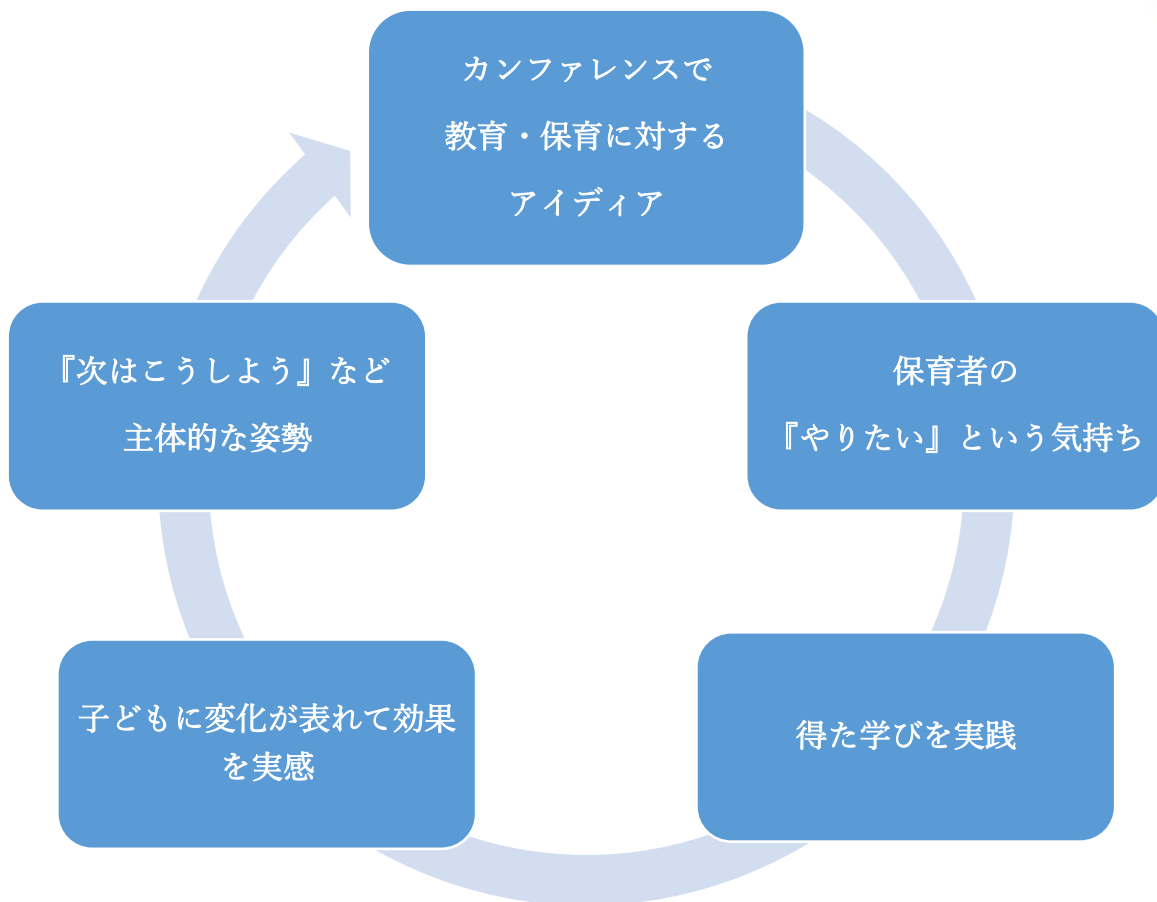


## 明日の実践へ～カンファレンスを実践へとつなぐ～

カンファレンスで学んだことを明日の教育・保育に生かすには

考える力は「持って生まれたもの」ではなく、「習慣」で磨かれるので、実践を重ねましょう。実践を重ねることで、自分の考えや教育・保育について、具体的にわかりやすい言葉で相手に伝える力、対話する力も高まっていきます。

カンファレンスを生かした実践を継続して行い、保育を見直し改善していく、つまり保育者自身が、学び続けることが大切です。





## おわりに

「教えられた」ではなく、「自分で学んだ」という実感が持て、「保育って楽しい」「少し保育の幅が広がった」「もう一度、“子ども理解”を見直してみたい」など、参加する保育者が自分自身の保育の良さに気づき、前向きになれるカンファレンスを行いましょ

う。

カンファレンスを行うことが、自身の成長につながると実感できれば、日頃から他の保育者と「子どもについて話をしたい」「保育の相談をしたい」という気持ちが生まれます。

これにより、職員間で教育・保育観の共有が進み、保育者の専門性を磨くと共に、皆で一つの方向を向き、園内の一体感も生まれます。

教育・保育に関する悩みは様々ですが、その答えは子どもたちの姿から見えてきます。“子ども理解”を深めるために、園の実態や課題に合わせてカンファレンスの内容、形態を工夫しながら、保育者一人一人が自ら気づき、教育・保育の質の向上につなげてい





制作・発行

奈良市子ども未来部こども園推進課

保育・教育指導係

問い合わせ先：（０７４２）３４－５４９３

平成３１年３月 発行